

## ブルゴーニュ大学への協定留学 月例報告書（12月分）

留学先大学：ブルゴーニュ大学

氏名：奥山海

### はじめに

留学開始から、3ヶ月が経過しました。今では、友だちもでき、毎日楽しく留学生活を送っています。残り1ヶ月弱で、お別れするのが悲しいくらいです。

### 学校について

12月の中旬に、学校でプチ・クリスマスパーティーを行いました。学生が各々、食べ物を持ち寄って、お昼の時間に集まり、食事をしました。個々が持ち寄った食べ物の中には、例えば韓国ならキムチ、日本ならおにぎりというように、様々な国の食べ物が勢揃いしました。パーティー会場のテーブルが、小さな世界に見えました。

2022年最後の授業では、クラスでプレゼント交換を行いました。自分がプレゼントを渡す人は、事前に知らされているのですが、それとは逆に、誰からプレゼントがもらえるかは、わかりません。いわゆる「シークレット・サンタ」と呼ばれるもので、プレゼント交換時には、とても盛り上がりました。ちなみに私はスノードームとお菓子をもらいました。



学生が各々持ち寄ったプレゼントたち

### 旅行について① - コルマール編



コルマールの街並み

12月10日は、フランス西部の街、コルマールに学校の遠足で行きました。コルマールは、コロンバージュと呼ばれる木組みと、色鮮やかな家々が立ち並び、非常に美しく、可愛い街です。

遠足当日は、雪が軽く降っており、気温は氷点下で、手と足が凍えるような寒さでした。コルマールはアルザスという地方に含まれますが、そのアルザス地方では、白ワインが有名で、私はアルザスのホット白ワインを飲みました。白ワインの味は美味しかったのですが、個人的には、ブルゴーニュ地方のワインの方が好みでした。この時、私は着実に、ブルゴーニュに熟成されつつあることに気づかされたのでした。

## 旅行について② - ストラスブール編



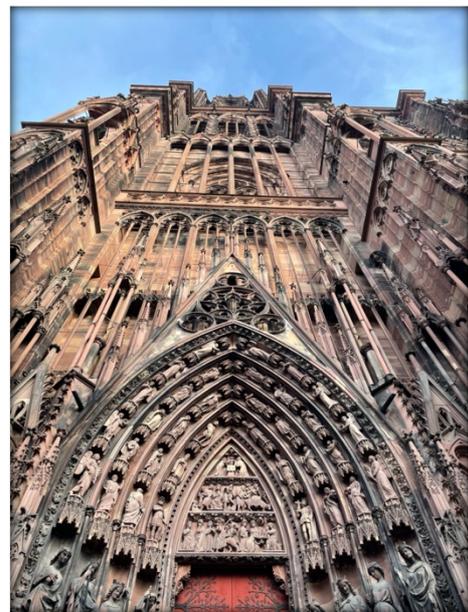
友人と、ストラスブールのクリスマスツリー

12月17日から、クリスマスバカンスが始まり、学校は翌年1月2日までお休みになりました。この休みを使って、私はフランス各地を巡りました。その一つが、ストラスブールです。ストラスブールは、フランス東部、ドイツとの国境近くにあり、歴史的に何度も国籍が変わった街です。ストラスブールをドイツ語表記で読むと、シュトラスブルクとなり、日本語で「街道の城」という意味になります。この意味からわかる通り、ストラスブールは、かつて交通の要所として栄えた街でもありました。現在では、欧州評議会などが置かれ、ストラスブールは、ヨーロッパ統合の要となる場所として機能しています。

私は友人と二人で、そんなストラスブールにやってきました。旅行当日は、雪が降っており、全て

を凍らせるような寒さでしたが、雪によってストラスブールの景色は、より幻想的に見えました。ストラスブールの広場には、大きなクリスマスツリーが飾られており、初めて見る巨大なツリーに圧倒されました。ツリーを後にして、街の中心へと進んでいくと、今度は巨大な大聖堂が現れました。ストラスブール大聖堂、正式名称はカテドラル・ノートルダム・ド・ストラスブール。高さ142メートルもある大聖堂は、間近で見ると、逆に自分がアリのようになってしまったかのように感じてしまいました。大聖堂を登ると、その屋上からは、雪を被って、より美しくなったストラスブール全体を眺めることができました。まだ、現代のような高層ビルがない時代に、大聖堂の屋上から見える景色というのは、当時の人々からすると、世俗から離れた世界だと思っていたのだろうか、そんなことを考え、当時の様子に思いを馳せながら美しい景色をしばらく眺めていました。

ストラスブールには二日間滞在しましたが、その魅力を十分に堪能するにはもう一度訪れるべきだと私に思わせる、ストラスブールはそんな街でした。



ストラスブール大聖堂

### 旅行について③ - アヌシー編

12月20日には、アヌシーを訪れました。アヌシーは、フランスの南東部にあり、街中に川が流れ、自然豊かな街です。アヌシーの雰囲気は、非常に落ち着いていて、街中を歩いていると、都会の喧騒を忘れ、落ち着いた気持ちにさせてくれました。アヌシーを訪れた経緯として、その街はフランスでできた友人の故郷で、彼らからアヌ



友人らと、アヌシーの自然

シーの話聞き、その魅力を実際に堪能したいと思い、アヌシーを訪れたのでした。私たちは、食事をしたり、トランプで遊んだり、街中を散歩したりして過ごし、アヌシー旅行は楽しい思い出となりました。

### おわりに

残された留学生活は、気がつけば半分を過ぎ、残り1ヶ月弱となりました。フランスの言語や文化に触れ、それらを受け入れ、理解することが、とても楽しく感じるようになっていた現在、残り1ヶ月弱という短さで、帰国しないといけないということに、寂しさを感じ始めています。残された時間を、悔いのないように、大切に過ごしたいと思っています。